



線形写像の像と列空間

ベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ の張る空間の記号を用いると、ベクトルの張る空間と $\text{Im } A$ に関する考察は次のようにまとめられる。

$$\text{Im } A = \langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

つまり、 A の列ベクトルが張る空間が $\text{Im } A$ である。

このことから、 $\text{Im } A$ を A の列空間と呼ぶこともある。

ref: 行列と行列式の基礎 p96~97、ref: プログラミングのための線形代数 p135



線形写像の像と表現行列の列空間の一致 線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ の像 $\text{Im } f$ は、 f の表現行列の列ベクトルが張る空間である。

証明

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ の表現行列を $A = (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n)$ とするとき、 $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^n$ に対して、

$$f(\mathbf{v}) = A\mathbf{v} = v_1\mathbf{a}_1 + v_2\mathbf{a}_2 + \dots + v_n\mathbf{a}_n$$

なので、

$$\mathbf{u} \in \text{Im } f$$

$$\iff \exists \mathbf{v} \in \mathbb{R}^n \text{ s.t. } \mathbf{u} = f(\mathbf{v})$$

$$\iff \exists v_1, \dots, v_n \in \mathbb{R} \text{ s.t. } \mathbf{u} = v_1\mathbf{a}_1 + \dots + v_n\mathbf{a}_n$$

$$\iff \mathbf{u} \in \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

したがって、

$$\text{Im } f = \text{Im } A = \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

が成り立つ。 ■

上述の証明の

$$\boldsymbol{u} \in \text{Im } f \iff \exists \boldsymbol{v} \in \mathbb{R}^n \text{ s.t. } \boldsymbol{u} = f(\boldsymbol{v})$$

という変形に着目すると、この定理は次のように線型方程式の文脈で言い換えられる。



線形写像の像空間と方程式の解の存在 $\boldsymbol{b} \in \mathbb{R}^m$ に対して

$$\boldsymbol{b} \in \text{Im } A \iff \text{方程式 } A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b} \text{ が解を持つ}$$